

私は、もともと司法の仕事がしたい、そう思って学生の時に就職活動は行なっていませんでした。しかし、試験に落ちて慌てて就職先を探して先輩の紹介で「オープミやざき」に入ることができました。最初の4年間は共同購入の部署、その後は商品部で商品の品揃えや仕入れの仕事、商品本部長など約30年間商品事業に携わりました。

「オープミやざき」は、組合員さんに喜ばれることは自分の判断ができる組織です。使われる組合員さんのくらしの場面を想定して色々な商品の開発や改善を行なってきました。自分が開発した商品や品揃えした商品が組合員さんのくらしに役立つ。こんなやりがいのある仕事はないというのが実感です。もちろん事業ですから数値目標はあります。しかし、数字をつくるために嘘をついたり人をだましたりすることもありませんし、「ノルマ」もあります。組合員さんに喜ばれることを徹底して実践した結果が数値として表れる。そして、”ありがとうございます”の言葉をたくさんいただけるやりがいのある仕事・組織だと自負していますし、私もその思いでやってきました。

方針書の中に「蝶を集めには花を育てよ」という言葉があります。蝶を捕まえようと追いかけ回しても蝶は逃げていきます。蝶が集まる環境をつくることが大事だということです。しかし蝶が集まる花は簡単には咲かず、土を耕し肥料をやり、丈夫な根と幹が育つて初めて美しい花が咲きます。地道な努力が必要となります。蝶を「組合員さん」「お取引先」「職員」と考え、組合員さんやお取引が気持よく集まり、職員が気持よくいいきいきと働ける環境をつくっていきたいと考えています。

就職は人生の中でも大切な選択の分岐点です。収入や福利厚生のこと、その組織が今後も成長していくのかということも大切ですが、一日の多くの時間仕事をするわけですから、働きがいのある仕事か、どんな人が働いているのか、人間として成長できる組織なのかということが重要だと思います。そういう意味では「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」という外部からの賞もいただきました。いま、この組織の一員としていることを誇りに思っています。

「オープミやざき」は、これからも組合員さんの願いを実現するために「観ること」「聴くこと」「応えていくこと」に全力で取り組みます。その積み重ねが組合員さんやお取引先との信頼を築いていくことを信じて。そして職員、組合員さん、お取引先と一緒に「宮崎の地でキラキラと光る組織」をつくります。



Hiroshi Hidaka

宮崎に住むすべての方のくらしの願いを「協同の力」で実現していく



「組合員さんの声を大切に」設立の
ときから変わらない私たちのDNA

組合員さんの生活に必要な商品の購買に応える事業。購買対応事業がコーポミやざきのミッション。売る立場でなく、買う立場にたって、組合員さんがくらしのなかで欲しい商品やサービスを気持ちよく利用できるようにすることを大切にしています。

「相手の気持ちになって考える」「人の喜ぶことをする」を追求し、組合員さんの思いに寄り添い、組合員さんの声を大切にしています。「年間12万件」これはコーポミやざきが組合員さんから寄せられた声の数。寄せられた声は商品の品揃えや、開発・改善など事業に生かし、喜ばれている声や使いこなし情報は、店舗のPOPや宅配の商品カタログなどの事業と、組合員さんをつなぐ機関紙で紹介し、お取引先にも伝えて商品やサービス、運営に生かしています。

商品が使われて“喜ばれている声”をお取引先に伝える目的は、商品の開発・改善に生かしてもらうと同時に、お取引先の工場などの現場で働いている方を始め関わっていただいているすべての方に、自分の仕事が組合員さんに役に立っていることを知り励みにしてもらうことです。実際に多くのお取引先に喜んでいただき工場の入り口や食堂に掲示したり、朝礼で紹介しているところもあります。この取り組みを続けていくことで、今ではお取引先からお礼の便りをいただくようになり、便りは声を出していただいた組合員さんにお返します。私たちはこの取り組みを「善の循環」と呼んで大切にしています。コーポミやざきに関わる全ての人が仕事の励みになったり、働きがいを感じたり、笑顔になれば、人にやさしく思いやりを持った社会になると思っています。